

議 事 録

会 議 名	北海道ソフトテニス連盟 平成29年度第2回理事会
I. 日 時	平成29年12月10日(日) 13時30分開始、15時30分終了
II. 会 場	中島体育センター講堂(2階)
III. 出席者	<p>会長～高橋、 副会長～恩村、佐藤(正)、安藤、青山、佐藤(順) 理事長～運上、副理事長～篠原、市川、中村(圭)、内海、関谷、横道、 常任理事～佐藤(幸)、中村(俊)、大塚、渡辺 理事～笠原、塩越、戸田、村中、三浦、播磨、日比生、山本、吉田、中村、 畠山、高村、西山 監事～工藤、内藤</p> <p style="text-align: right;">順不同</p>
IV. 議事録	以下に記載のとおり
<p>1. 開会 (篠原総務委員長)</p> <p>2. 会長挨拶 (高橋会長) まず、本年度のこれまでの各種大会運営に際し、理事・役員のご協力に対して感謝申し上げます。 先般、釧路連盟創立70周年記念式典に参加してきました。地元には湿原の風アリーナ釧路もでき、子供たちの地元育成に力を注がれていることが地方に出向いたことにより良く分かりました。 本日は、少子化に向けた今後の当連盟の財政基盤を見据え、これからの財政健全化に向けた討議も行いたいと思っています。コスト削減には限界があり、必要な事業も出来なくなると組織が縮小することも考えられます。会員登録料の見直しを始め皆さんと知恵を出し合っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>3. 議事 (議事進行：高橋会長、説明：運上理事長)</p> <p>(1) 東日本連盟評総会及び日本連盟評議員会等の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東日本関係 (別冊資料 P1～) <ul style="list-style-type: none"> ・ 総会次第の(6)その他で、現在福島県で東日本の小学生大会が行われており、宮城県でも初めて小学生の東西対抗が開催される。今後このような大会を東日本連盟として何らかの関わり合いを持っていく必要があるのではないかと福島県より提案があった。 ・ さまざまな意見が交わされたが、結果として、二つの大会の主催団体は、東日本連盟や日連傘下の団体ではなく、大会も連盟組織としての位置づけがされていない。各支部においても予選をやっていたり、やっていなかったりと対応もまちまちであり、連盟事業として関わっていないところもあるので、もう少し実態を調査の上、対応すべきとの意見が出され、今後事務局で実態や各支部の対応状況を確認してから改めて協議することとなった。 ・ 平成29年度・第72回東日本ソフトテニス選手権大会結果で北海道関係者の結果については、シニア女子55で、藤岡育子・北山之恵ペアが、第2位、シニア女子60で、佐々木仁子・伴戸明己ペアが第3位に入賞している。 ・ 平成30年度の第73回東日本ソフトテニス選手権大会(茨城県・栃木県)については、来年の大会が、2県にまたがって、週も二週に分かれての開催である。一般男子・女子から45男子・女子まで茨城県、シニア男女50以上から栃木県での開催。2県での開催理由は、新しいコートができたことにより、開催ブロックと県連の要望によるもの。 ●日本連盟関係 (別冊資料 P12～) 北海道にも影響しそうなポイントのみ説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P16～大会要項の改訂で、全日本シニア選手権大会の一部種目を全日本社会人選手権大会に組み入れたことにより変更がなされている。 	

- P18～アジア競技大会日本代表予選会からダブルス種別がなくなった。
- P19～⑤日本スポーツマスターズは、今年度から2日間開催となった。39支部と韓国から2チームの参加があり、合計41チームで参加数が増えている。
- ⑬天皇皇后賜杯、全日本社会人、全日本シングルス大会の3大会でホームページを活用し、個人戦の組み合わせを事前公開する方向で検討している。
- ⑭ペアのユニフォームの統一で、ダブルスの時のペア間の統一と対戦相手と異なるカラーを着用することを検討する。(今年の全日本選手権の決勝が全く同じユニフォームの対戦となり、解説者も視聴者も分かりにくかった。)
- P22～8. ソフトテニス審判員資格認定に関連し、評議員から意見があり、ジャッジのコールが聞こえないので観客目線での審判が必要。スコアボードで、すぐスコアを外してしまうので、動画を撮っている人や観客もスコアが分からないと言う声があり、一定時間置くことが必要ではないかと提案あった。この質問に対する日連の答弁としては、今後委員会で検討するとの答弁があった。
- P23～9. ソフトテニス用具・用品、施設認定で、硬式テニス場との兼用でソフトテニスのネットを使用しないでそのまま大会運営しているケースがあるため、今後の検討事項として上がっている。現在、対策として、ネットのレンタル対応を検討しており、レンタル事業者と日連が協議をしている。北海道でも硬式と兼用しているコートがあり、特にオムニコートでは半分ソフトテニス、半分硬式でのネットのまま大会を行っているコートがあるので、同様に検討しなければならない。
- P29～平成30年度大会日程並びに開催地一覧(案)で、共催大会の日本スポーツマスターズ2018の開催地が札幌市から江別市に変更となる。
- P33～平成30年全日本U-14チーム選手の女子に北海道から追分中の原田美結選手がStep4の大会で優勝し、選出されている。
- P38からは支部功労者・優良団体をはじめとする表彰関係であり、お目通しを。

▶ 議長：○何か質問は(なし)

(2) 第72回国民体育大会(愛媛国体)北海道選手団の成績について

※次第冊子P3～4

- 成年男子は昨年の優勝があり第1シードであり、準決勝では三重県に敗れたが、3位決定戦では和歌山県に勝ちきって見事3位の結果を収めることができた。体育協会役員も応援に来ていただき、高い評価をいただいた。
- 成年女子は富山県との対戦であり、前年の全日本シングルスチャンピオンを軸に実力のある県だった。1番目(ダブルス)を取っての惜しい敗退で残念であった。
- 少年男子は2回戦が山形県であり、インターハイ優勝の羽黒高校の単独チームで強い相手であった。1番手がファイナル負けであり、勝っていれば展開が違ったかもしれない。
- 少年女子は宮城県との対戦であり、残念ながら1回戦での敗退となった。
- 男女総合成績では、11位結果となりました。対戦結果を資料に記載していますのでお目通しをいただきたい。

●中村強化委員長～補足

- 成年男子は昨年に劣らない結果であった。試合内容はファイナルゲームが多い展開で、そこを粘り強く選手監督コーチが一丸となり、そこに応援も加わり勝ち取ったのが大きかった。また、ベスト8に東北勢の宮城、岩手も入っており、東北・北海道の頑張りが伺える。成年女子は、初出場の2人が経験不足の面はあったが、経験を積めば十分戦える。少年男子・女子は、昨年に続き組み合わせが厳しい所に入ったが、今後はシングルの強化が大事なポイントになっていく。
- 選手並びに監督コーチに感謝申し上げ、ご協力いただきました皆様にこの場を借り御礼申し上げます。

(3) YONEX CUP 2017 国際ソフトテニス札幌大会について

※次第冊子P5～6

- 今年から2月開催となった。6ページに全日本の選手名が掲載されているが、男女共に今年の全日本ランキング上位選手の出場が予定されているので、各支部の皆さんには観客動員に向け、PRをお願いしたい。道内枠は17日開催のHBC杯でランキングが出るので、出場者を決めていく。

(4) 第47回ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップ2018について

※次第冊子 P7～10

- ・ 競技形態と要項は基本的に 2017 と一緒である。予備日の月曜日をもつか否かを検討としている。

(5) 各委員会からの報告・議案について

①総務委員会（篠原委員長）

※次第冊子 P11～16、別紙資料

- ・ P11 に平成 29 年度全国大会・東日本大会当における道内選手の入賞結果を記載している。記入漏れや誤りがある場合は、お知らせいただきたい。
- ・ 平成 29 年度道連被表彰者の推薦について、明年 2/23 期限厳守でお願いする。
- ・ 別紙資料（財政健全化検討資料）からも単年度の収支が厳しくなっている。この間、理事数の削減、副賞などの経費削減、大会スポンサーの獲得などにも取り組んできた。収支の推移からも基金残高が年々減少し、会員登録数の減少、大会会場費の増、今後の消費税アップなど、あらゆる経費節減にも限界が生じてくる。会員登録数が約 15,000 人おり、例えば単純に会費を 100 円値上げすると 150 万円の収入増の計算になる。しかし、一律に値上げすることにもならないと考えている。今後、全国大会が目白押しであり、平成 30 年度以降には会費の増額をせざるを得ない状況と考えている。年明けにも踏み込んだものをお示ししたい。また、各支部が全員理事として出席しているわけではないので、アンケート調査も実施していきたい。

②広報 IT 委員会（運上理事長代理）

- ・ ソフトテニスニュースを 3 月または 4 月の発行を予定している。ホームページをスマートフォンにも対応できるように移行したが、もう少し掲載内容のアップを図りたい。

③大会競技委員会（市川委員長）

※次第冊子 P17～20

- ・ 網掛けの部分は大会が終了している。若干参加人数が少なく不成立の種目が出てきている。
- ・ P19 から 20 は、来年度の大会日程を現在調整中である。
- ・ 今年度からロングスパッツの着用を認めたが、特別トラブルはありません。

●高校部より

- ・ No. 2 ゴーセン杯ハイジャパ北海道予選大会の北は帯広、芽室となっているが、旭川総合体育館に**変更**をお願いしたい。
- ・ No. 10 秋季選手権大会の会場が帯広の森になっているが、苫小牧に変更していただきたい。（記載誤り）

④強化委員会（中村委員長）

※次第冊子 P21～28

- ・ P21～Step4 の実施要項であるが、この大会（U-14 女子ダブルス）で追分中の原田選手が優勝した。原田選手はシングルスジュニアオリンピックカップでも 3 位に入ったことで、日連推薦で Step 4 に参加したが、ダブルス優勝の結果もあり、最終的に全日本 U-14 女子代表に選ばれている。
- ・ P26 小学生の道外大会出場選手選考基準について説明があった。
- ・ P27 都道府県対抗全日本中学生大会出場メンバー選考基準についての説明があった。
- ・ P28 強化委員会の補正予算について、支出の強化合宿等推進費と指導者育成費で u14・17・20 一般の合同合宿を例年実施しているが、今年度は施設の確保と全体での日程調整ができず予算 24 万円を計上していたが使わなくなった。指導者育成費では 15 万円を計上していたが、中学高校で独自に実施している関係もあり、全体での開催ができなかった。これらのことを受け、強化合宿等推進費の小中高一般強化推進費を当初 40 万円（各 10 万円）をさらに 10 万ずつ上乗せして各 20 万円として合計で 80 万円としたい。また、全国大会選手助成費では予定していた選手がいけなかったこともあり予算残があることから強化推進費の方で体育館使用料、ボール代等に変更しているところがありますので、414 万円の配分額の中での補正予算についてご理解いただきたく提案します。（承認）

⑤生涯スポーツ推進委員会

※日本スポーツマスターズ 2017 兵庫大会の視察報告書（大塚泰史）

- ・ 別紙に視察報告書がまとめられているが、今回は台風の影響で大会自体を成立させることの方が大変であり、当初の運営計画どおりとはなっていない状況であった。

- ・ 競技役員及び来賓者の会場への輸送は行っていないが、日連からの派遣役員及び競技委員は、体育協会が用意している交通手段はなく兵庫県連盟の役員がワンボックス車で送迎対応をしていた。
- ・ 韓国選手団への対応として通訳を含めボランティアの必要性を強く感じた。
- ・ 補助員の高校生が100人規模で動員。
- ・ 表彰式は台風の影響もあり、当初のスケジュールとは違い、クラブハウス内で行われる。
- ・ 日韓交流事業を含め、韓国選手団に対する対応が多々あり、これらを事前に確認しておくことが重要である。

●江別支部理事より質問

ア. 札幌開催がなぜ江別になったのか。

イ. 江別運動公園では軟式野球が予定されているが、そこの関わり方は。

ウ. 主管が実行委員会となっており、出店、キムチ、温かい飲物と言われてもその対応ができるかどうか。

●審判委員会より質問

エ. 審判の対応について、実行委員会が行うのか、道連が行うのか、札幌で行うのか、現時点ではっきりしていない。その辺を調整しておかないと準備の時間がなくなってしまう。

(答弁理事長)

ア. 10月末に東京から日体協の視察団がきて、札幌円山と江別野幌の両方を視察した。また、当初硬式テニス野幌を使用する予定であったが、硬式は平岸に新しいコートが完成することから、そちらを使うことが確定した。このことにより野幌が使用可能な状況ができたとの説明があった。さらに今年大会から二日間開催に変更となり、そのこともあって前年より参加チーム数が4チーム増えた。札幌の円山12面では、2日間で消化することが難しい。また、42チーム分の待機用のテントを設営できる場所が円山にはないことなどが主な要因(更衣室やトイレ、韓国チームの対応等についても要因として考えられる)として、最終的に野幌で行う方向で先日、札幌市の実行委員会から連絡があった。

イ. 野球の件については、聞き及んでいないが、ただ、そのほかにも野幌を予定していたバレーボールは、使用しなくなったと聞いている。また、事前の打ち合わせでは駐車場の棲み分けはできるようである。

ウ. 食べ物の関係では実施できる物とできない物があり、現地の視察に行った時の感想も含まれているので、当然、やれるものやれないものを区別して対応したい。無理に対応するものではない。

エ. 審判は視察の結果、相当の数が必要で、補助員を含めて人数を確認しなければならない。高校は全道新人戦と重なるので、中学生・大学生への依頼も含めて考えなければならない。やはり人数がどれだけ必要かが大事であり、年内までに審判委員会と詰めていきたい。また、大会運営チームと韓国対応チームに分けた編成チームをもって対応しなければならない。

(理事より質問)

オ. この大会だけではないのですが、送迎は仕事ではないので、役員の送迎を個人の自家用車で行うこと自体、何か起こったときの対応ができない(個人の責任負担になってしまう)。連盟として、ワゴン車を借りるだとか、プロの運転手を頼むとか、お金はかかるがその辺を検討すべきでは。

(答弁会長)

カ. 今回は江別であり、交通の便は良い方ではない。予算の問題も大きいですが実行委員会と行う共同体であり、道連としても全国大会で失敗は許されないので、人任せでなく自分たちでやる気構えで、理事長を中心に調整していただきたい。

(関谷副委員長)

- ・ 第13回シニア選抜大会のエントリー数について、この大会が45歳以上で、45・50・55・60歳のカテゴリーがあるが、45歳男女が不成立、男子の55も不成立であり、ランキング外の選手にも電話をかけて是非参加してほしいとの調整を今までしてきた。また、違う大会に変更することも含めて今後継続すべきか否かの意見を伺いたい。

(意見安藤副会長)

- ・ 生涯スポーツ大会の挨拶に私が行っているが、元々始まった趣旨は、ねんりんピック・スポ

レクの選手強化のための研修の名で実施されていた大会で、スポレクがなくなり、出場選手はランキングで選ぶことになっていたが、最近では、シニアの出場ペアが少なくなっているためランキング自体が出しにくくなっている。選抜の意味自体がなくなり、お願いして出てもらうことが近年続いている。先般の挨拶では、私から来年は大会がなくなるかもとの発言をしてきた。このほか、財政の健全化の検討をする上で、参加料でまかないきれない大会が出てきている。この大会も例外でなくマイナスだと思う。そこまでして開催すべき事業であるかと考えるところもある。また、シニアの大会は一般男女の大会よりも年間の試合数が多く、予算的にもシニアにかなりなウエイトが置かれている。この際、疑問があるような大会は廃止することも必要ではないか。私的には形を変えるのではなくやめるべきと決断する時期ではないか。

(回答会長)

- ・ 委員会の方で今の意見を参考にシニアの方たちの意見も聞きながら、再度検討してみてください。

(理事長)

- ・ P29 日韓交流事業実施要領について、来年の日程(予定)が決まった。H30年5月10日から16日までの7日間であり、北海道から13人、岐阜県から9人の合計22人の選手団を予定している。本人負担は今年の例で行くと1万円程度であるが、1週間の日程を確保できる選手を探すこと自体が難しく、今後、選手団の検討・調整をしていきますので、ご協力をお願いしたい。

⑥指導普及委員会(内海委員長)

※次第冊子 P30 参照(指導普及委員会活動状況)

- ・ 指導者派遣で予算がまだありますので、事前にきてほしいという支部がありましたらご連絡をいただければ。

⑦審判・技術等級委員会(横道委員長)

※次第冊子 P31

- ・ 11月12日に日連から林田審判委員長を招き、1級審判員更新9名、来年1級受験者予定3名が受講した。講習会は隔年開催であり、来年度は開催しない年となるのでご了承いただきたい。
- ・ 林田委員長から実技の点数が悪いとの指摘がされています。もう少し勉強するように指導がなされていますので、今後その辺の対応を検討します。

(6)事務局(運上)

※別紙1枚もの

- ・ 事務局の年末年始の休業期間は、12月28日(木)午後から1月5日(金)までで、1月6日から事務局の仕事始めとなるが、6日は土曜日のため、午前中のみとなり、日・月は休みとなるため、ご注意いただきたい。休み期間中に急ぎの連絡がある場合は、委員会に関連することは各担当委員長にご連絡していただきたい。
- ・ 事務局員の紹介～松原事務局員退職後臨時的にお手伝いをお願いしていた戸田恵子理事が新たに事務局員として就任いただくことになりました。

(7)支部～特になし。

(8)その他

(理事長)

①今後の機関会議・その他の日程について

- ・ 日程は記載のとおりであり、今後登録料の変更がらみで常任理事会を開催する場合がありますので、予定としていますが、日程は状況に応じて開催する予定です。また、今年度は3月31日が会計監査なので、経理の締め日と一緒にありますが、早めに経理を閉じていただき、関係書類を整備し、対応をお願いします。

②その他(特になし)

4. 閉会挨拶

高橋会長から閉会挨拶